

EnSight FAQ

Case間の補間、差分計算

サイバネットシステム株式会社

つくる情熱を、支える情熱。

CYBERNET

概要

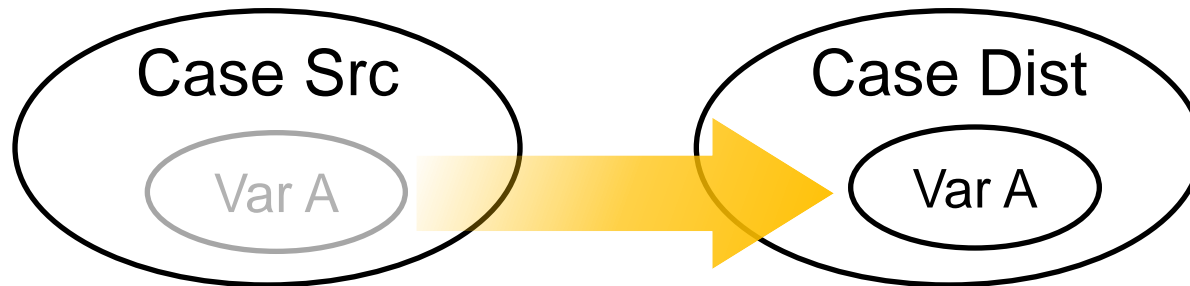
EnSightでは、計算機機能※の組み込み関数を利用することで複数のCase間での変数の補間、または差分計算を行うことが可能です。

関数名	機能
CaseMap	Case間での変数の補間
CaseMapDiff	Case間での差分計算 (ver10.1 より実装)

※ 計算機機能の基本的な利用方法については、「EnSight 補足資料_計算機の利用方法.pdf」を御覧ください。

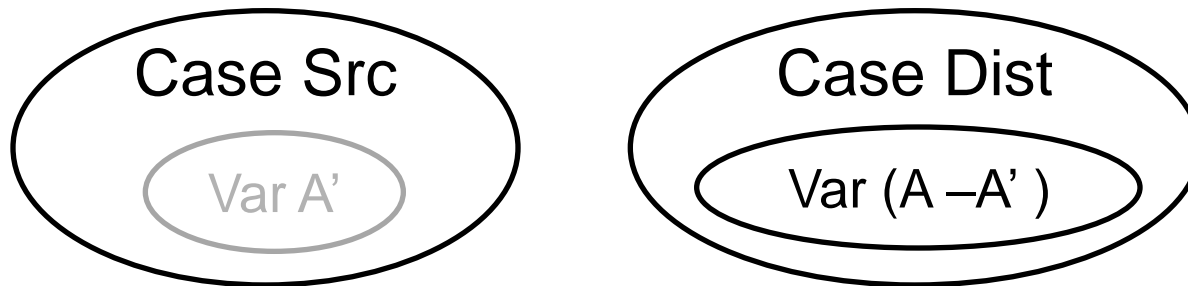
CaseMap

CaseMapは、指定Caseから指定変数を補間します。



CaseMapDiff

CaseMapDiffは、指定変数の指定Caseとの差分値を計算します。



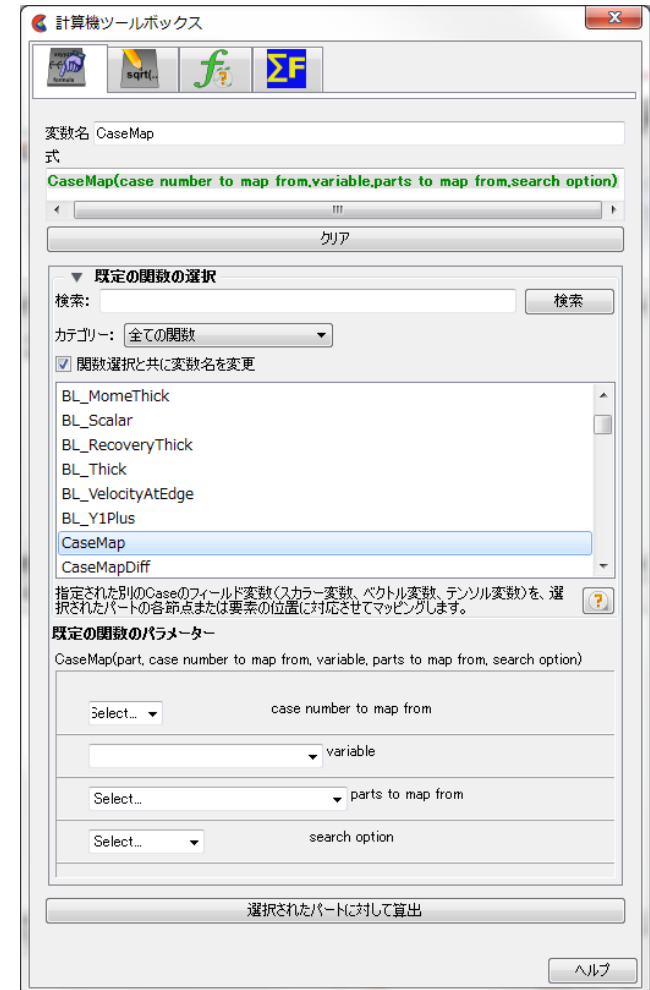
CaseMap、CaseMapDiff関数の利用方法

パラメータ

case number to map from :	補間元ケース
variable:	補間対象の変数
Parts to map from:	補間元パートの選別
•Global search	全体検索
•Dimensionality match	次元数が一致
•Part number match	パート番号が一致
•Part selected for case to map from	補間元の選択パート
Search option:	検索オプション
•search only	検索のみ
•nearest value	最近傍の値

出力

CaseMap :	補間値
CaseMapDiff :	元の値 - 補間値



※ 「Parts to map from」は、10.1より実装